

農業と観光で新たな産業がうまれる

NPO法人エコ・リンク・アソシエーション

環境共生を軸に幅広い活動を実施しているNPO法人エコ・リンク・アソシエーション。特に修学旅行の受け入れと自然体験活動を軸に、都市と農山漁村の交流による地域の心と人、経済の活性化に力を入れている。

平成16年に県内初の農家民泊での修学旅行を受け入れ、平成20年は2,500人、平成21年は5,000人と受け入れ数は年々増加。平成22年は既に7,000人の修学旅行の予約が入っているという。「過疎化、高齢化など地域が抱える課題の解決策の一つとして取り組んで

いる体験型観光、その中の一つが修学旅行の受け入れです。修学旅行が観光型から体験型に変わり、学校側は平和教育、農家民泊、環境教育ができる場所を求めています。取り組みがちょうど時代の波に合っていた」と代表理事の下津公一郎さん。「もともと、生産者が一番報われるような事業、農業を助けていく新しい何かができないかという思いがあった」という下津さん。修学旅行客の受け入れは農家民泊で農家の現金収入が増えるだけでなく、受け入れ農家の高齢者が農漁業や生活の知恵、技を伝える環境をつくり、



元気な高齢者が住む地域づくりにもつながっている。

「これまで修学旅行で一度も鹿児島を訪れたことのない学校が農家民泊を求めてやって来ています。通常、旅行中の1〜2泊が農家民泊で、残りはホテルに宿泊するため、ホテルは新たな客を獲得する。農家民泊の受け入れは農家だけでなく地域の経済発展に貢献しています」。観光客一万人で約一億円の経済効果があるという。

「修学旅行の市場はまだまだ需要があり、九州新幹線全線開業で旅行客呼び込むチャンスも広がる。やり方次第でもっと受け入れを増やすことができる」と力強い。

「この事業は新たな投資が必要ない、地域にある資源を生かすもの。美しい自然はもちろんです。一番の魅力は人。また会いに行きたいと思わせる、地域の魅力ある人たちが生かすことが大事です」。

主に南薩地域を活動拠点とする下津さん、鹿児島市のグリーン・ツーリズムの推進には「それぞれの地域で農家民泊先をまとめ、魅力ある人を発掘するコーディネート」を育成することが必要。正確な情報をつかみ、ニーズに合った地域づくりをすることも大切です」と語ってくれた。

「鹿児島県における農山漁村生活体験学習に係る取扱指針」

県では、修学旅行や子ども農山漁村交流プロジェクトなどの教育旅行における農山漁村生活体験学習の受け入れ農家などが対価を受けて提供する体験学習の範囲の明確化、体験学習の安全性の確保を目的にガイドラインを制定しました。

(県ホームページ→産業・労働→食・農業→農村振興→グリーン・ツーリズム)



代表理事
下津 公一郎さん

「子どもたちが満足して帰る姿を見るときや、受け入れ先が受け入れてよかったと喜んでくれたときに嬉しい」

NPO法人エコ・リンク・アソシエーション
☎0993-53-7270
ホームページ <http://eco-link.jp/index.php>



事務局長
上代 恭久さん

「修学旅行の受け入れは経済活動でもあり、楽しみでもある。子どもたちには家に帰って南九州市で過ごした時間、体験を思い出してほしいですね」

南九州市グリーン・ツーリズム協議会
☎0993-56-5465
ホームページ <http://minpaku.info/>

教育旅行、受け入れられます

子どもたちとの交流を楽しんでほしい！

南九州市グリーン・ツーリズム協議会

子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを大きく、力強い子どもの成長を支える教育活動として、農林水産省、文部科学省、総務省が連携し、小学生の農山漁村での1週間程度の長期宿泊体験活動を推進する「子ども農山

漁村交流プロジェクト」。県内の受け入れモデル地域の一つに指定されている南九州市では、南九州市グリーン・ツーリズム協議会が窓口となり、平成21年11月16日から3泊4日の日程で、鹿児島市立名山小学校の5年生42人を受け入れた。

子どもたちは、ツリーハウス体験や農家民泊、農業体験、平和学習など地元の方々との交流を通し、さまざまな体験を楽しんだ。特に2泊した農家民泊先の家族との交流が子どもたちの心に残った様子。受け入れ農家とお別れ会では、「怒られたことも楽しかった」「また絶対遊びに来ます」など感謝の言葉や別れを惜しむ声が聞かれた。

「子どもたちには地域のありのままの生活を体験してほしいです。農家民泊での交流を通じて、人と人とのつながりを感じてほしい」と南九州市グリーン・ツーリズム協議会事務局長の上代恭久さん。同協議会は、県外の高校や中学校



昔の農具を使って大豆の脱穀。



の修学旅行生の受け入れも実施しており、体験メニューの計画や農家民泊の手配、研修を行いグリーン・ツーリズムの推進に励んでいる。



高田村づくり委員会の皆さんに農機具の使い方を教わりました。